

第八決算報告

大正十二年十二月三十一日現在
貸借対照表

未拂込資本金	三、七五〇、〇〇〇
預金及現金	八、五七〇、〇〇〇
假借金	一、八八〇、〇〇〇
營業用建物	三、三二〇、〇〇〇
備品並器械機	三、五八〇、〇〇〇
月賦償却金	四、六八〇、〇〇〇
商 品	一、六〇〇、〇〇〇
未決算勘定	三、五〇〇、〇〇〇
山林勘定	一、九〇〇、〇〇〇
特約勘定	二、四三〇、〇〇〇
未收勘定	二、四三〇、〇〇〇
未收保険料預り	七、三六〇、〇〇〇
合 計	五、五三〇、〇〇〇
負債之部	五、五三〇、〇〇〇
資 本金	五、〇〇〇、〇〇〇
假 受 金	六、九一〇、〇〇〇
保險料預り	七、四八〇、〇〇〇
未拂配當金	二、四八〇、〇〇〇
諸積立金	七、五〇〇、〇〇〇
前期繰越金	二、四三〇、〇〇〇
当期純益金	四、七三〇、〇〇〇
合 計	五、五三〇、〇〇〇

追テ監査役任期満了改選ノ
處全員再選任ス

同	山崎 吉平
同	大谷 久藏
同	柏原幸次郎
同	鈴木松之丞
支 配 人	井上貞治郎
監 査 役	安島重三郎
同	伊藤淺之助
同	岡田 治作
相 談 役	高岡唯一郎
同	山崎與三郎
同	諸橋久太郎
同	金成 通

利益金處分
金七千五百三十三圓五十六錢
當期純益金及前期繰越金
此分配左ノ如シ

- 一金壹千壹圓也 諸積立金
- 一金參千七百五拾圓也
- 一金貳千參圓五拾六錢 後期繰越金
- 右之通候也

大正十三年一月

磐城建物株式會社
取締役社長 白井 博之
専務取締役 鈴木辰三郎
取締役 井上 茂作

價定 一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢



二月九日夕刊

五城十三字詰
一行五十錢

日刊休 日曜 大祭
祝日の翌日

印刷所 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部

發行兼編輯人 川崎 文治
印刷人 川崎 文治

内科顧問醫學博士鈴木清藏先生
明十日出張診療
磐城 磐城病院
平町 磐城病院
(電話一四番)

看護婦派出の求め應ず
平町 平町
平看護婦會
電話三〇七番

一册代金で御希望通りな五册の雑誌が自由で読める
平町長橋町三五
川崎巡文庫
(申込次第規則書進呈)

諸新聞が大騒ぎに報道せる醫術衛生研究映畫
お産の活動寫眞

- 一、子宮腔の開く状態
- 一、胎兒が最も正しい位置で生れるもの
- 一、後頭位出産
- 一、後産
- 一、帝國切開術
- 一、盲腸炎の手術
- 一、錯覚

主催 東京衛生部
其他各種の映畫御覽に供し升
一等、六十錢 平驛前新通
二等、五十錢
三等、四十錢
帝國館
電話五五五番

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一二五	一二五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
七七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	一二五	一四五
七七銀新	一二五	九五
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一八七
只見川電	一二五	六〇
植田水電	一二五	一四五
好間水電	一二五	一三五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製水	二五〇	二七〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	四〇〇
同 新	二二五	一八〇
同 新	五〇〇	八七〇
同 新	一七五	三六〇
平運送	一二五	八〇

丸登株式會社
平町電話三三三番
川添房二郎

上院改革の骨髄

今日世上に唱へられて居る貴族院改革なるものは畢竟するに技葉未節に走つて居るものが多いのは遺憾に耐ねぬ。眞に貴族院を根底的に改革せんとするには先づ第一に有爵議員の連記投票制を廢止せねばならぬ、今日貴族院に團體を爲しつゝあるものは敢て研究會のみと云はぬがながら政治上の意見が合致して居るから一緒に居ると云ふ譯ではない、團體を作つて居る方が各自に便利であるといふことが主眼となつて居る

るのであつて各自が議員當選を確實にするといふことが其根本となつて居るのである、斯くの如き意味を以つて集まりたる處の團體であるか故に種々如何がはしき事が問題となるのは己むを得ざる事である、貴族院改革の骨髄は此點に止めをさすこと云べきである、處で今日の狀態を以てする時は貴族院自身が自ら先立つて自覺するといふことが我國の階級闘争を防止する處であつて今日の如く華族なるものが世襲で永久に華族たり得るといふことは決して時勢に順應したる制度といふこ

とは出來ぬのである、先づ少くとも世襲制度を廢して一代華族制とするといふことに意を致す必要があるのではないかすれば決して國民對貴族の争ひは醸成せられぬことになる譯であつて今日の如きこともこれを未然に防ぐ事が出來る譯である。要するに貴族院改革の聲は近時盛んになつて來たものゝ其根底に觸るゝ處の改革を爲すにあらずんば何等の效果なく此事は偏に彼等貴族の自發的行動に俟つ處頗る大なるものがある。

(NY人)

面目一新すべし 大平町の玄關口

逐年乗降客が膨張するので 二階建の宏壯な本屋を建設

平野は常磐炭の黄金時代に
は東北第一の乗降客を吞吐
した、現在に於ても仙臺驛
に次ぐ程の旺盛さを示して
居るが驛は極めて狭隘の爲
め列車發着の際非常な混雑
を來す處から其後一二等待
合室を撤廢しブリツチも擴
張して困難を緩和する事
出來たが逐年膨張する驛の
状態から見ては不十分
なので二階建の宏壯な本屋
を建設するの必要を認め鐵
道當局は早速是れを實現せ
しむべく調査中であるから
近く市制を實施するべき道
程にある平町の玄關口も面
目一新するに至るであらう

變死体

砂原の傍らに 正月の祝酒が 過ぎて

石城郡小名濱町字中坪馬
上松太郎處有演船番人小野房
吉(七)は去る七日午前八
時頃漁船傍らの砂原に死亡
して居たのを發見したが舊
正月の祝酒が過ぎて腦溢血
を起したらしいと

一時的現象

變調な低氣壓

大浦信用組合が

中央本縣總代に當選

運動猛烈を極めたが 開票の結果は最高點

中央金庫本縣總代選舉は昨
八日午前十一時から縣廳參
事會室にて執行早くから福
島信用組合古川長作、石城
郡大浦村信用組合酒井專治
の兩氏候補者に推され運動

無斷で家出

水戸驛を徘徊

平町字新町正長男茂職伊藤
甲(一八)同新川町ヤニ長男

玉川村議二名失格

最初から被選舉權の無い のを村會は有効と認む

縣參事會が無効と判定

石城郡玉川村に於て大正十
年六月廿九日執行した村會
議員の選舉に際し村工事の
請負者なるを以て被選舉權
のない宮内虎之助丹野秀治
の兩名に對する投票を村會
は有効と認め當選と決定し
た爲め長瀬主水外一名は是
れを違法として縣參事會に
訴願を申立たが此程參事會
にて審査の結果當選無効と
判定した

平の有毒藝妓

平町に 於ける藝妓數は百廿七名で あるが去月中の健康診斷に 依ると有毒者は梅毒二名、 淋毒性諸疾患四名、軟性下 疳一名、其他十三名、事故

昨日上京

大金を横領

逐一自白した

昨報湯本町新龜の抱藝妓誘
拐犯人茨城縣猿島郡岩井町
縫宿職渡邊庄次郎(四一)は
其後取調への結果他から賣
却方を依頼された製茶八十
貫を湯本町にて三百八十圓
に賣却全部横領費消した外
肩書地の某木炭商から頼ま
れた木炭三百廿俵の賣却代
金四百五十四圓も是れ又横

眞性慾問題

婚の證

はさう簡單に片づくものでは
ない。例へば血液検査をや
つたからとて確實に病の有無を判定し難い場合が決して
少くはない殊に婦人の側に於て此の診斷が勵行し得るで
あらうか疑問である

常磐片々

大平町の玄關口が改造され るは最近耳よりな話

玄關口が改造されても奥の
間邊りに山積した塵芥の仕
末に窮して居ては面目丸ッ
プ

晝は講演會

夜は活動寫眞

石城郡教育會主催の下に
左記日割に依り晝は國民精
神作興に關する講演會を夜

牛乳を呑む

一ヶ月搾取量

平署管内に於ける牛乳搾取
者は八名であるが牛乳頭數
七十七頭、一箇月中の搾取
量五千五百四斗である

倉組合表彰

一等受賞者氏名

石城郡四倉濱漁業組合にて
去る六日表彰した優良漁獲
者中の一等賞左の如し

- (春船漁獲高)六千三百四
十八圓六十二錢、船主鹽
田兼次郎、船長久保木末
吉(夏船同)二萬三千六
百六十圓六十四錢、船主
鈴木幸平、船長佐藤仙太
郎(秋船同)六千九百七
十五圓十四錢、船主新妻
春吉、船長新妻竹次郎

不平受付

投書歡迎

萬引の注意 今年の初賣
出しにも又萬引が數多く捉
はれた、而し萬引の中には
ホンの出來心でやる者もあ
るのでせうから寧ろ平署は
是れを逮捕する爲めに私服
の警官を張り込ませるので
なく事前に注意して萬引せ

公人私入

根本幸次郎氏(平消防 組伍長)品川白煉瓦火災の 際に防火に盡力右腕に烈傷 を負つて醫療金廿圓を此程 香坂知事から給與さる

白土半次郎氏(本縣地 方課長)富岡村會議員總會 に出席の歸途九日平町に立 寄り郡役所にて事務視察を 遂げた

鈴木辰三郎氏(石城政 友幹事長)政情視察の爲め 昨日上京

不參者七名であると 酌婦平に潜伏 茨城縣 多賀郡豊浦町川尻料理店角 海老方酌婦佐々木イツ(二 三)は八日午後九時頃逃走 平方面に潜伏せる模様にて 平署に捜索方依頼し來る

△出 生 △大工町永島庄太郎四女佳 △一丁目松木榮一長女きみ △五丁目 丹野周一郎長男 榮壽

△一丁目 富田義六男哲郎 △紺屋町柳下文藏四女フミ △死 亡 △橋長町 中條サノ(七二) △白銀町 三浦ツギ(二二) △五丁目 白土雅子(一四) △白銀町 塚本ヨイ(七六)

石城体操視察

本縣 体操科視學委員佐川永三郎 氏は廿三日に平第一、第二 兩小學校、廿五日植田、泉 小名濱、廿七日内郷村各小 學校を視察すると

しぬ様に警戒する譯には
行かないでせうか(注意生)

▼伊藤平署長の答……警 察の仕事は犯人を作り出 す爲めにやつて居るので はないのですから御説通 り事前の警戒も努めて息 まないのです

△出 生 △大工町永島庄太郎四女佳 △一丁目松木榮一長女きみ △五丁目 丹野周一郎長男 榮壽

△一丁目 富田義六男哲郎 △紺屋町柳下文藏四女フミ △死 亡 △橋長町 中條サノ(七二) △白銀町 三浦ツギ(二二) △五丁目 白土雅子(一四) △白銀町 塚本ヨイ(七六)

△出 生 △大工町永島庄太郎四女佳 △一丁目松木榮一長女きみ △五丁目 丹野周一郎長男 榮壽

△一丁目 富田義六男哲郎 △紺屋町柳下文藏四女フミ △死 亡 △橋長町 中條サノ(七二) △白銀町 三浦ツギ(二二) △五丁目 白土雅子(一四) △白銀町 塚本ヨイ(七六)